

第2回学生支援セミナー
中枢疾患を専門に扱う先生に聞いてみよう

中枢疾患専門施設の リハビリ業務について

～役割とやりがい～



2022年4月26日
北海道脳神経外科記念病院
リハビリテーション部
横山 正樹

自己紹介



- PT14年目の35歳
- 学生時代は野球一筋（今はゴルフ）
- 函館で4年内科・回復期・慢性期経験
- 当院脳外科の回復期で10年目
- 認定理学療法士（脳卒中）
- セラピストマネジャー
- 中堅理学療法士による北海道神経理学療法研究会 役員

施設紹介



● 一般病棟

- ・ 56床
- ・ SCU(急性期):3床
- ・ NCU(重症者):4床

● 回復期リハビリテーション病棟

- ・ 40床(回リハ病棟入院料1を取得)

● 神経内科病棟

- ・ 31床

当院の病院理念・院長方針

●理念

- 患者様第一を旨とし、患者様とご家族に安心と満足を提供致します

●院長方針

- 日本一患者様が幸せになれる病院へ

担当したある男性患者様より

命を救われた時、ご飯も食べられず、身体も動かずこんな状態なら**死んだ方がよかったと思った**

でもリハビリが進んでいき、少しずつ食べられるように、歩けるようにもなってきた、**生きる希望が見えた**

その時に初めて、**「まだ生きたい」** と思えた

中枢疾患とは

- 突然発症、命に関わる病気 （命が助かることが最優先）
- ご本人様だけではなく、ご家族様も今後について不安
- 絶望からの生きる希望
- 障害を背負っての新しい人生
- QOL（命が助かり、どのような形で生きていけるのか）



★リハビリは生きる希望！！

中枢疾患分野のリハビリテーション

●エビデンス（根拠）のあるリハビリが徐々に示されてきている

※早期リハビリ、早期歩行練習、装具療法、電気刺激療法・物理療法等

●整形分野のように、主治医からの指示で何週目にはどんなリハビリをして等のプロトコールは存在していない

※リスクや安静度等について主治医からの指示はあり

●リハビリ主で**ゴール**やリハビリ計画を立てていることが多い

なぜ中枢疾患分野を選択した？

●スポーツ

- ・元々興味があった分野
- ・実習でスポーツ分野を経験
- ・1セラピストは1日20人程度患者様を実施しており、リハビリのスピードに追いついていけず、自分の働いているイメージが湧かなかった...

●中枢疾患施設（回り八病棟）

- ・実習で中枢疾患分野を経験
- ・1日5～6人程度担当（1患者60分）
- ・患者様の話をしっかり聞いて、ご家族様も含めて介入できて、自分のやりたいリハビリだと思い、働いていくイメージが湧いた

何が楽しい・嬉しい？（やりがい）

- 退院する時の患者様やご家族様からの感謝の言葉

- ▶ 給与ではない報酬（人の役に立てた、達成感）

※患者様やご家族様が幸せに＝セラピストも幸せ

- 元通りにはならないからこそそのやりがい

- ▶ 脳を損傷してしまうと今の医療では元に戻るということはない、そのためこれで良いということがないため、より元に近い状態を目指して研鑽していくことができる

どんな役割がある？（＝責任、大変なこと）

①効率的な改善を図ること（専門職としての技術力）

②正確なゴール設定（能力・時期などの予後予測）

③他職種とのチームアプローチ・マネジメント

ゴール設定（役割②）

- 自分が学生時代・働いてからも悩んだことの1つ
- 整形よりもリハ主体でゴール設定が重要となる
- 近年の医療費削減等の影響から改善が図れば良いというのは時代遅れ
- 根拠を持って各患者様に合わせてゴール設定をし、効率良く改善を図り、退院へというのが至上命題となっている

ゴール設定（役割②）

- リハビリの前提条件、専門職としての重要な役割
- 方針とゴール設定を混同しない

★方針（進むべき方向、目指す方向）

- ・ニーズを今後どうしてくかという方向性を示すこと
- ※予防・維持・向上・改善・強化・獲得など

★ゴール設定

- ・到達すると予想されるレベル・状態とそれが達成される時期を具体的に設定する
- ・期間的な終わりがある

ゴール設定の方法（あくまで横山の方法）

最終ゴール設定

- ・ 入院期限・患者＆家族の希望・主治医の方針・リハビリ予後予測等から最終ゴールを検討

短・中期ゴール設定

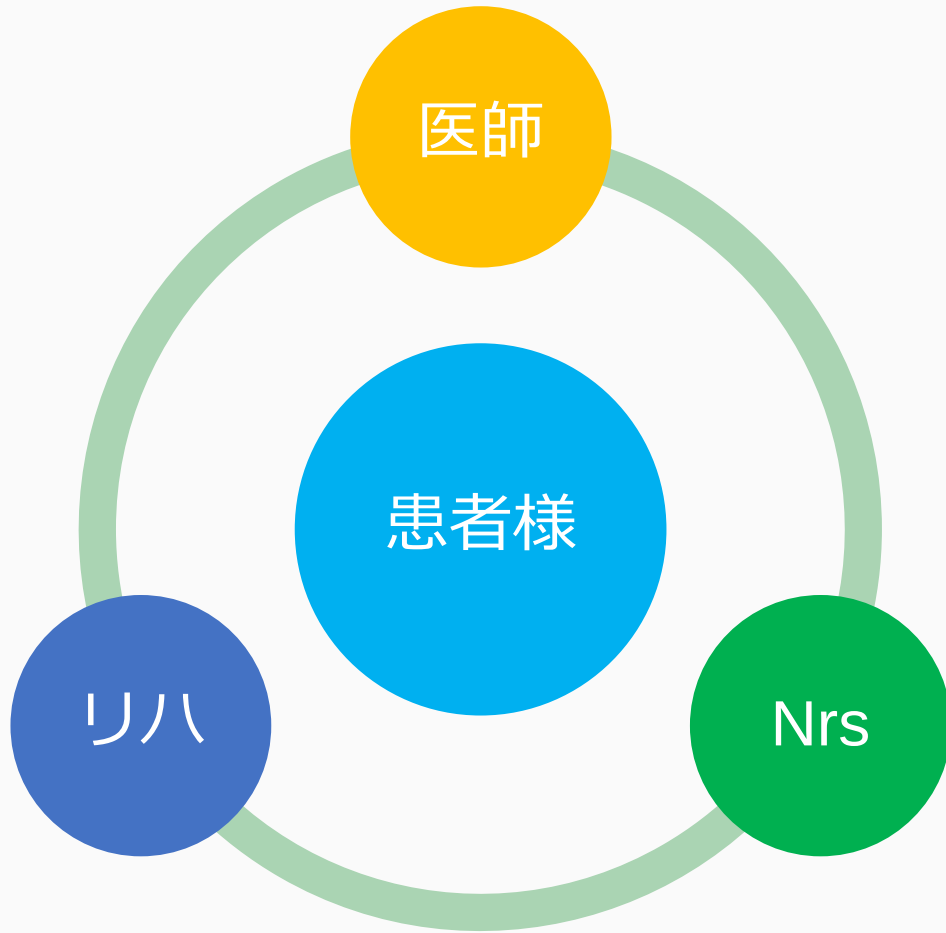
- ・ 最終ゴールから逆算して、短・中期ゴールを設定する

最終ゴールの短縮検討

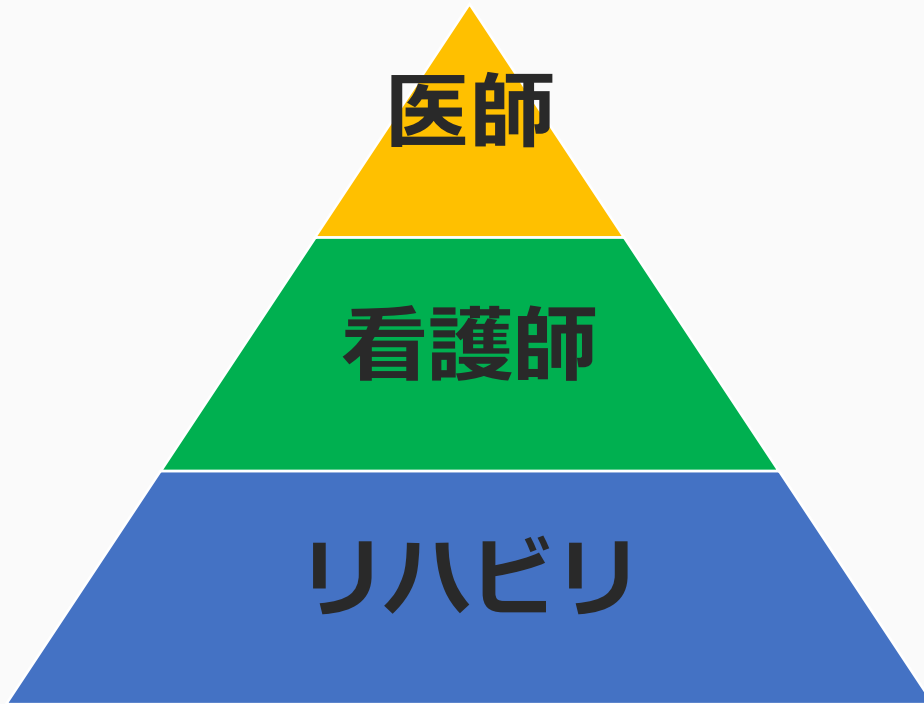
- ・ 最終ゴールから－2週間～1ヶ月短縮で達成できないかを再検討

チームアプローチ（役割③）

- 中枢疾患患者様の症状は多岐に渡るため、多職種連携でチームアプローチが重要



チームアプローチ（役割③）



- 中枢疾患患者様の症状は多岐に渡るため、多職種連携でチームアプローチが重要

※ただし、現実の医療チーム内には地位の格差がある

- 他職種や一般の方への認知度・地位が向上することで信用を得られやすい
- そのために現場ではリハビリ専門職としての結果とゴールを明確に示せることが重要、さらには組織として政治的な活動も重要となってくる

学生のうちにやっておいた方がよいこと

①家族を大切にする

⇒家族にどんな医療・リハビリ提供をしてほしいか

②整理整頓

⇒患者様の情報や進捗状況などの整理

③メンタルケア方法の確立

⇒自分のメンタルの安定がまず大切

④社会勉強（バイト・合コン）

⇒学校と社会の違い、コミュニケーション力

まとめ

- 中枢疾患は命に関わる病気であり、患者・家族様ともに不安
- 症状が多岐に渡るため、チームアプローチが重要
- 希望を与えられるのが、「役割」であり「やりがい」でもある
- リハビリゴールを明確に示せることが重要な「役割」
- 医療チームには地位の格差があるため、地位向上を図ることも重要
- 中枢疾患分野のエビデンス確立のためにも、今後の若手PT・OTの活躍が重要

A hand is shown from the bottom, reaching upwards towards a bright sun in a clear blue sky. The sun is positioned in the upper center, creating a strong lens flare effect. The hand is open, with fingers slightly spread, reaching towards the light. The overall mood is one of hope and aspiration.

生きる希望になれるセラピストへ